

チートス

トレンドラインの
教科書

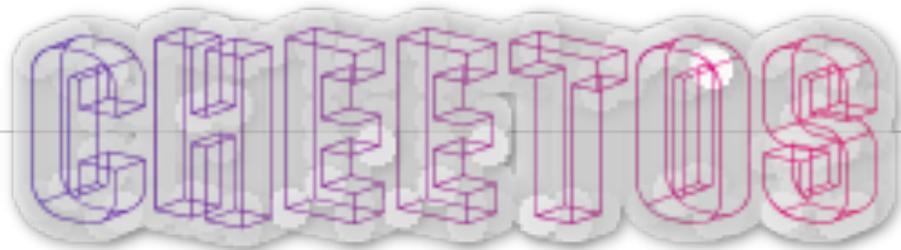
ご挨拶

この度は「チートス」を読んでいただき
ありがとうございます。

今回のレポートでは
ハードルが高い
「トレンドライン」の引き方について
どこよりもわかりやすく
明確な一貫性を持って解説したつもりです。

このレポートの内容を実践をしていく中で
あなたのトレードの質が
格段に上がることを心より願っています。

サイキックス



レポートの飛ばし読みレジュメ

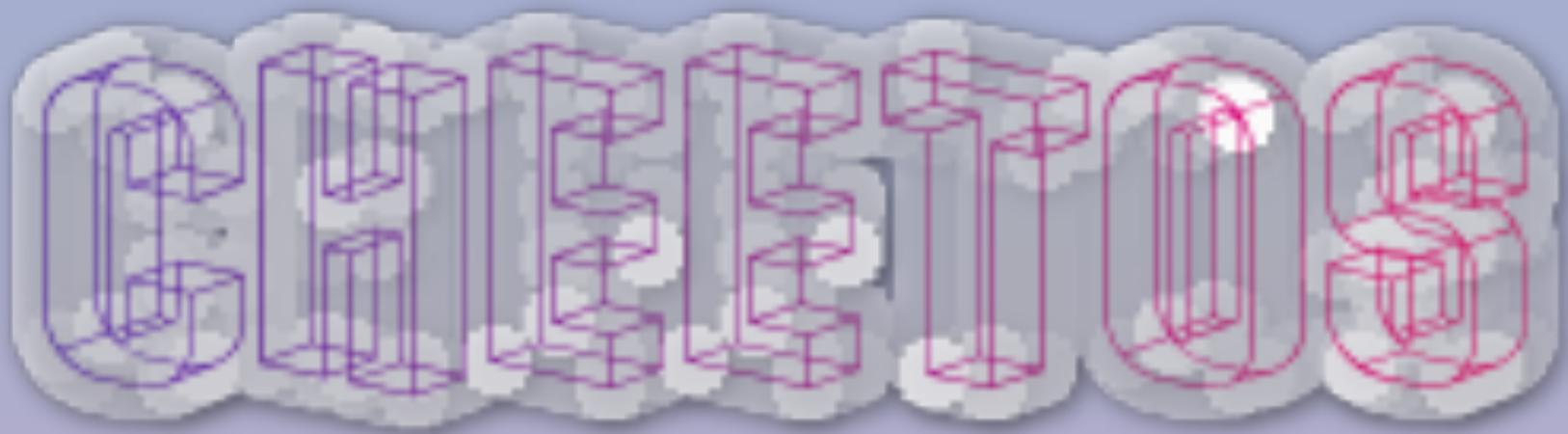
〔トレンドラインの引き方〕

- ・ 上昇トレンドであれば、**波形の安値**
- 下降トレンドであれば、**波形の高値**を基準にする
- ・ どののどこを結ぶか？
- **代表的な高安とトレンドの2波目**を結ぶ
- ・ 波形認識
- 波の大きさが均一であり、
かつ大きくて綺麗なものを選ぶ

〔トレンドラインの反発の捉え方〕

- ・ トレンドラインの反応の見方
- 3点目でラインにしっかり反応しているかどうか
- 小さな**高値切り上げ**、**安値切り下げ**を確認
- 明確な圧力を感じられるか

トレンドラインはただの斜め線ではなく、
波に対して引くものである。



トレンドラインの 引き方と波形認識編

トレンドラインの 絶対的な2つのルール

まず最初にトレンドラインを引く時に
「この2つのルールさえ守れば良い」
というものをご紹介します。

絶対的なルール①

上昇トレンドであれば、波形の安値
下降トレンドであれば、波形の高値
を基準にして引く

実際のチャートを用いて解説しましょう

上昇トレンドであるのに
高値基準でラインを引いている
間違いの例と安値基準の正解の例

赤は高値を基準に
トレンドラインを引いているため×
青の方が正しい



赤いラインはルール①
「上昇トレンド時には
波形の安値を基準に引く」
を破っていますね。

どことどこを結んで
ラインを引くのか

絶対的なルール②

「1点目は直近の代表的な
最安値/最高値

2点目は2波目の高値/安値に引く」

この時に波を無視して

2波目以外のところから波を無視して

3波目などに引かないこと。

たったこれだけ。

それでは①と②のルールを使って

実際のチャートに線を引いてみましょう

何も引いていないチャート

田 ■ 米ドル/スイスフラン · 1 · OANDA ◯ 始値0.99102 高値0.99102 安値0.99095 終値0.99102 -0.00001 (-0.00%)



このチャートの中で
 最安値からのトレンドラインは
 どこに引けると思いますか？

トレンドラインを引ける箇所



ここに対してトレンドラインを引けるだけ
 引いてみるとこうなります。
 それぞれの番号のものは紫の縦線部の
 ローソク足の安値に引いている形に
 なります。

拡大写真



さてどの起点部分から

①~⑤のどの番号を2点目として

トレンドラインを引くのが良いでしょうか？

どことどこを結んで ラインを引くのか

正解は①です。

- ①以外でもラインの引き方としては間違いではないのですが、私のトレンドライン手法では①にしか引きません。

正解の理由を説明しましょう。

①以外の場合、

2波目が無視されてしまっていますね。

言い換えると、**2波目を意識している人達が完璧に無視されてしまっていますね**

全体の波形認識



まず全体としての波形認識の画像です。

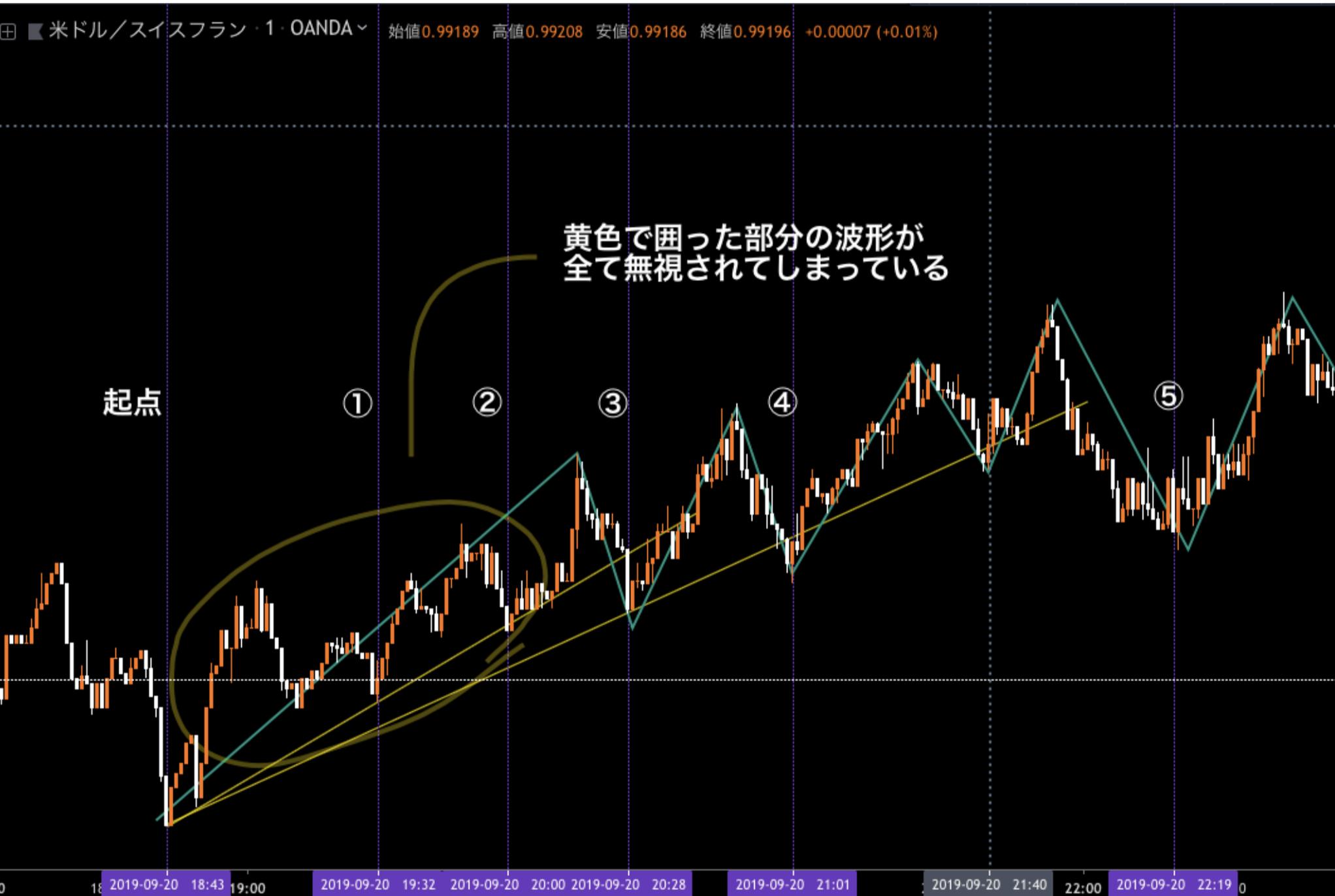
- ①と②は距離が近く比較しづらいので
①と③で考えてみましょう。

③を2点とした場合の 間違ったの波形認識



もし③を2点目とするならば、
波形をこう捉えていることになります。
トレンドラインはただの斜め線ではなく、
「波形に対して引くもの」です

③を2点とした場合の 間違っただの波形認識



この場合、①および②付近の波形を
意識している人を
完全に無視しています。

どことどこを結んで ラインを引くのか

私のトレード手法は

思惑の一致や強い圧力に対してアプローチを

かけるトレードですので

**「圧力構造が明確でないところは
一切触りません。」**

そもそもトレンドラインは「効かないこと」

も相場の中で多くあります。

この場合、

①以外の部分は①を無視しているのに

①以外が効くというのは考えづらいと

考えています。

どことどこを結んで ラインを引くのか

これはその辺のインジケータや
適当に引いた水平線も同じことが言えますが
圧力が明確でなかったり

使えるかわからない
トレンドラインを引くと
効いてるところもあるけれども、
効いていないところもある

そして効いていたとしても理由がわからない
という状態になります

それじゃあ勝てない。

どことどこを結んで ラインを引くのか

じゃあどうすれば良いかという
「圧力構造が明確なところ」だけに
絞ってエントリーことで
ラインの精度であったり、
リスクリワードをあげることができます。

①以外（2波目以外）の方が結果として
チャートが出来上がった頃には、
効いていたというのはいくつもありますが、
斜め線なんか適当に引けば、
当たっているところがたくさんある。

どことどこを結んで ラインを引くのか

私たちがしなければならないのは
「リアルタイムでチャートの右側が
見えていない状態で
どこでエントリーできるか」
を考えること

短期的な場面の結果論でどうだろうと
長期にわたって実際に動いているチャート
に対して勝ち続けられない限り、
自分の口座残高は増えません。

スイングの大きさ

エントリーする時に

- ・ 波の大きさが十分あるか？
- ・ ある程度均等であるか？
 - ・ 綺麗なものか？

を見極める必要があります。

チャートに表示される

波の大きさというのは

直近のボラティリティに対しての

「**相対的な評価**」によって決まります。

スイングの大きさを 見る時の注意点

例えば、一見波が大きいと感じられても
直近のボラティリティが低ければ
起点から波の頂点の部分まで
1pipsもなかったという場合もあります。

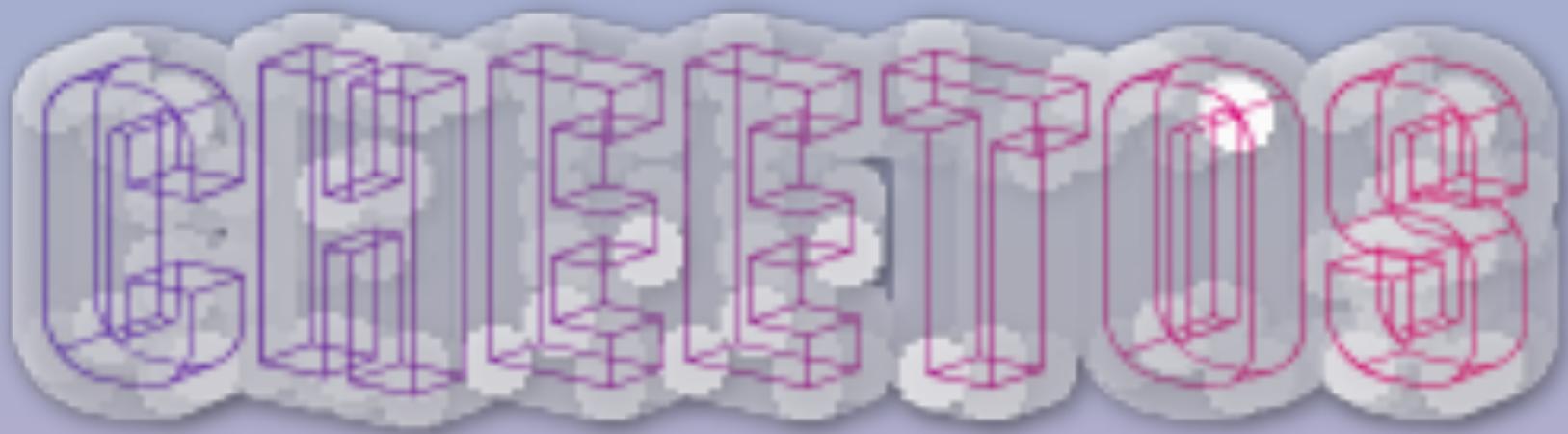
- ・大きくチャートを捉えて、
直近のボラが極端に低くないか。

- ・通貨ごと/時間軸ごとに
大体どれくらい動くのか

この2点をしっかり把握しておきましょう

理想的な波のチャート例





トレンドラインの 反転の見方編

トレンドラインの 反転の見方

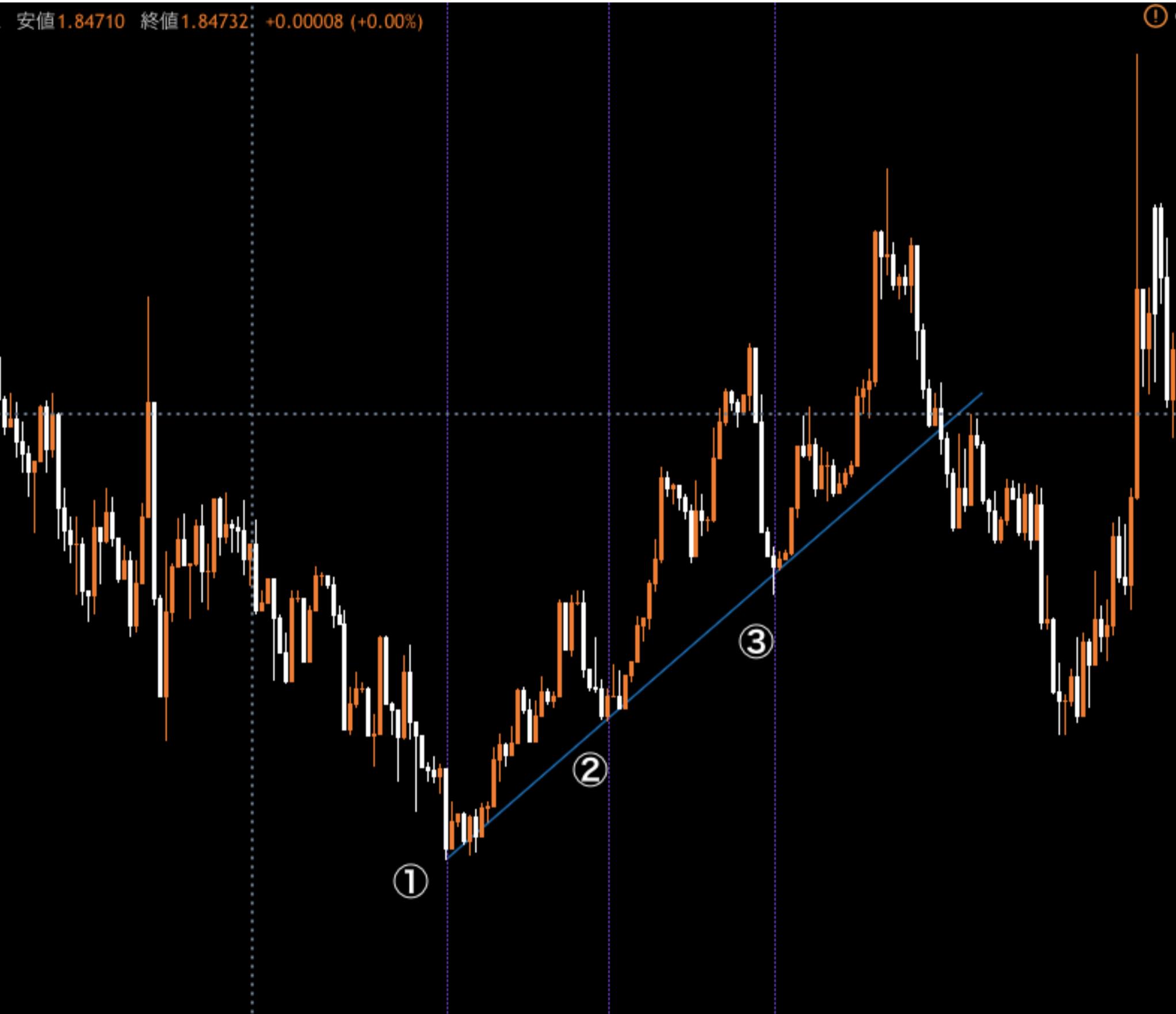
ざっと一通りのトレンドラインは
引き方をお伝えしたのでここからは
トレンドラインの反転の見方を
お伝えします。

トレンドラインの反転を見る上で
一番重要なのは

「3点目付近のアクション」です

どんなに意識されているトレンドライン
であっても4点目、5点目…と
タッチするたびにブレイクされる
可能性が高くなります。

3点目の実際のチャート



同じライン上での3点目のことを指
します。

トレンドラインの ブレイクとオーバーシュート

よく3点目に対してピンポイントに逆張りをかけると思われている方が多いのですが、
どんなに綺麗にトレンドラインを引けても
ブレイクするときはします。

またトレンドラインは
オーバーシュート

(抜けて少ししてから意識される) や

アンダーシュート

(ライン手前で意識される) が頻発します。

トレンドラインの ブレイクとオーバシユート

3点目にピンポイントで逆張りをかけるより

他根拠を含む

「3点目付近の

プライスアクションを見てから」

エントリーする方が賢明です。

ここを理解しておかないと

いざブレイクした時に適切な処置が

できないのと変な部分で

エントリーしてしまいやすくなります。

3点目付近の プライスアクションの見方

実際の3点目付近の
プライスアクションでの見るべき
ポイントは3つ

- (1)3点目の部分でラインに反応しているか
 - (2)ラインタッチ後、ダウを描いたか
 - (3)明確な圧力を確認できるか
- (3)まで全て条件を満たしたのちに
逆張りの順張りと言う形で
エントリーという形になります。

3点目の部分で ラインに反応しているか

3点目のライン付近で
多少のオーバーシュートを
起こしていても構わないので、
しっかりその3点目の部分で
ラインが意識されて
そこを軸に動いていることが確認できるか
というのが、トレンドラインを使って
エントリーする上での絶対的条件。

意識されていたうえでラインの手前で反発する
アンダーシュートもあるのですが、
定義が難しいのでここでは
無視していただいて構いません。

ライン反転後のダウ

3点目のライン付近で反転を確認できた後、
しっかりと短期的な圧力が反転しましたよ
ということを確認するために
ダウ、すなわち

「高値切り下げ」 「安値切り上げ」

がおきていることを確認します。

ダウについての細かいことは
私のブログに書いてありますので
そちらもご確認ください

リンク | [サイキックスの論理的バイナリー](#)

3日目反発後の 安値切り上げのチャート例



黄丸部が安値切り上げ部分です

明確な圧力の確認方法と 実際のエントリー

(3)番目は水平線を用いたものになりますが、私のロジックの核となる部分の1つです。

私がライントレードを行う時には
「どこで最後の勢力が発生したのか？」
というのを重要視します。

もう少し詳しくいうと
**「トレンド発生時にどこで反対売買の勢力が
エントリーしたポイントになるのか？」**
を重視しています。

明確な圧力の確認方法と 実際のエントリー

この「最後の圧力」が否定されれば、
トレンドが伸びやすいと
判断することができます。

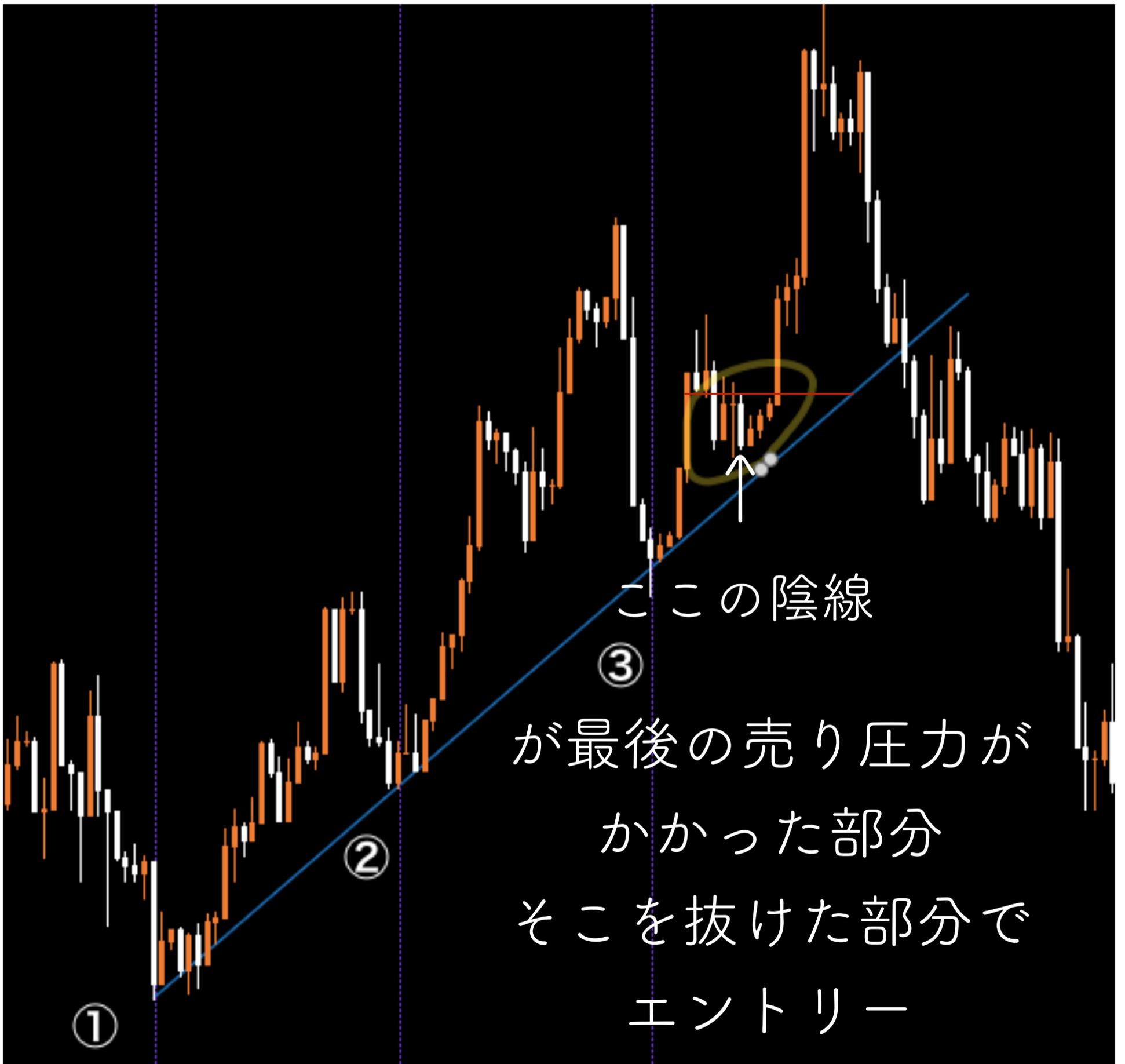
トレンドラインを引いて
エントリーする場合は

「最後の圧力」に対してラインを引き

そこを否定した場合に

エントリーするようになっています。

3日目反発後の 安値切り上げのチャート例



実際のエントリー の利確と損切り

また利確/損切りの選定をする際に
エントリー前に
必ず「チャネリングを行います」

チャネリングとは「チャネルライン」
を引くこと

すなわちトレンドラインと
同じ角度のラインを
もう一本引いてあげること

チャネリング

1点目と2点目の間の高値に
チャネリング



利確&損切り

チャネリングの仕方としては
軸となるトレンドラインの

1点目と2点目の間の高値に引く
(上昇に対してラインを引いた場合)

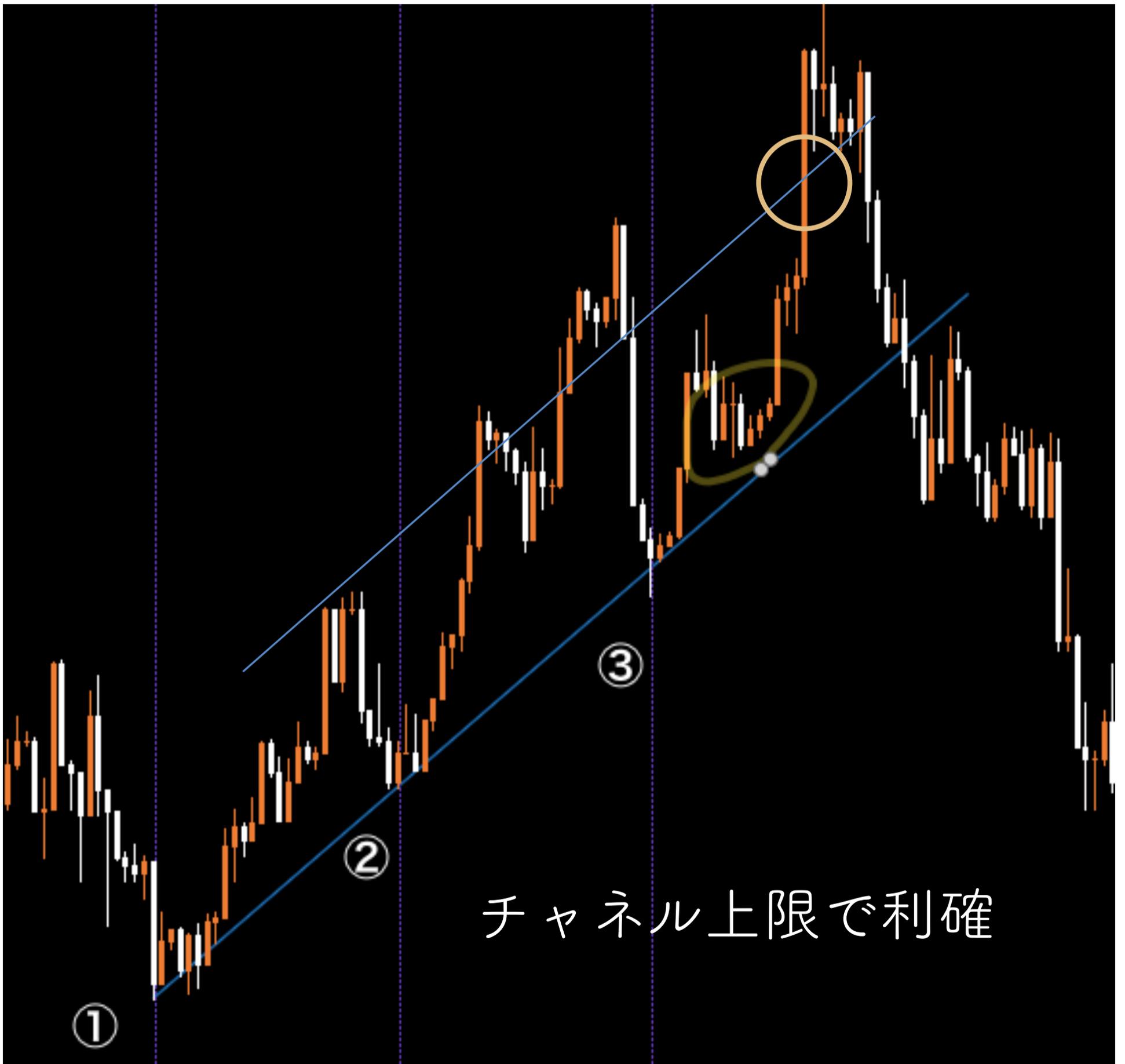
または

1点目と2点目の間の安値に引く
(下降に対してラインを引いた場合)

そして、**チャネル部分に触れた時点で利確**

損切りは直近の安値を抜けた時点

利確ポイント



損切りポイント



エントリー&決済まとめ

トレンドラインをひきチャネリングを行う。

トレンドラインの3点目付近での反転確認

→ 「最後の反対圧力」 抜けを確認で

エントリー

(この時にリスクリワードが

2:1以上であることが必須)

利確はチャネル上限 (ロングの場合)

またはチャネル下限 (ショートの場合)

損切りは直近安値 (ロングの場合)

または直近高値 (ショートの場合)

エントリー&決済まとめ

チャンネル上限で利確

チャンネルリング箇所

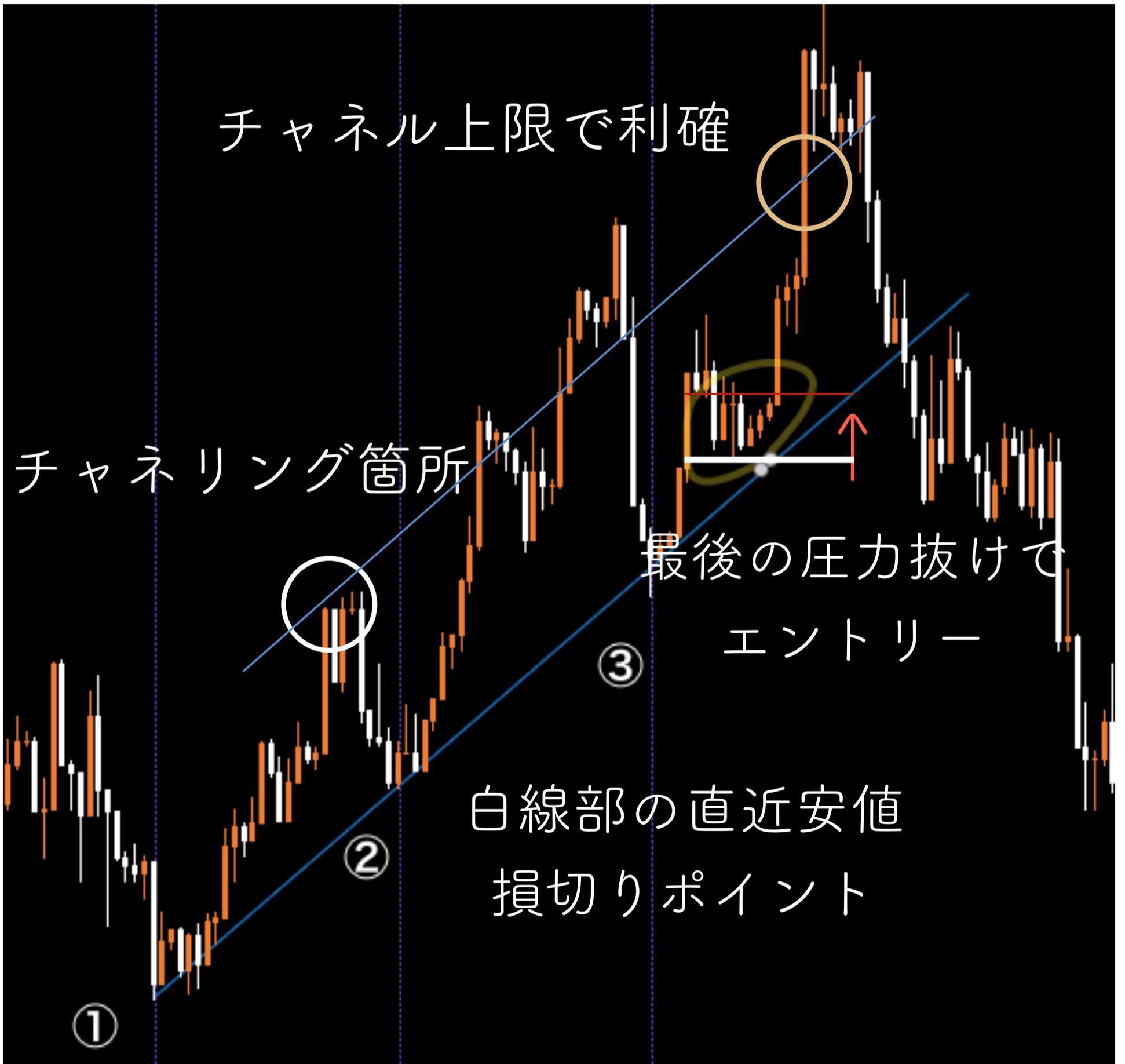
最後の圧力抜いで
エントリー

白線部の直近安値
損切りポイント

①

②

③

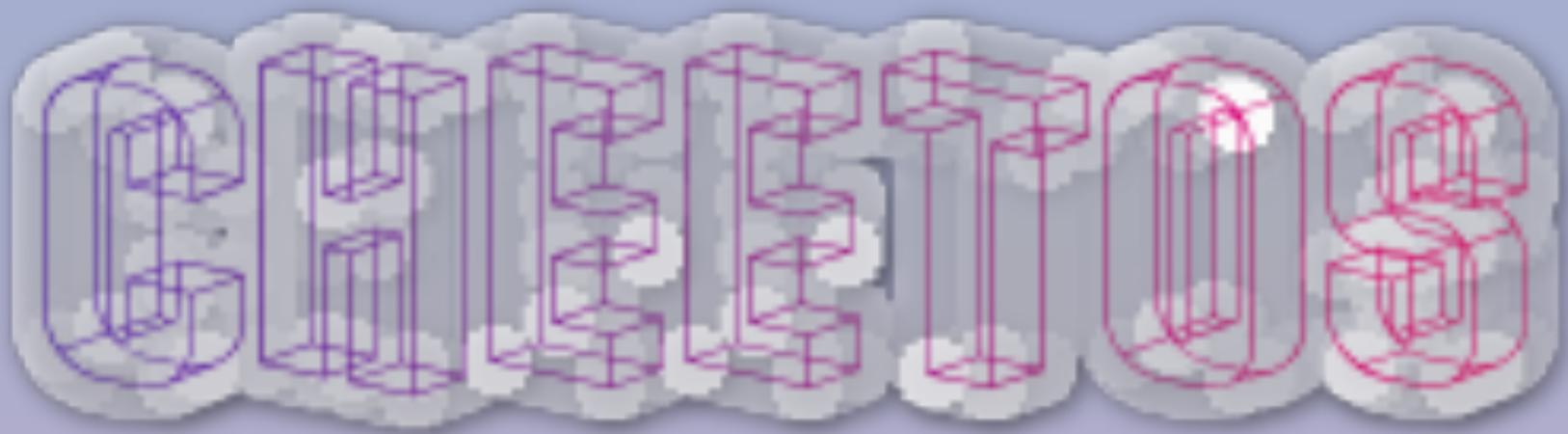


手法について

当手法は大きな流れは上なんだけれども短期的に下がっているものに対して順張りをかける手法になります。
(ロングの場合)

最初は理解するまで時間がかかるかもしれませんが、この方に当てはめてなんどもみてみてください。

順張り手法の中でも特に緻密にトレンドの強さに焦点を当てたものになるためバイナリーでも活用できます。



総括

総括

いかがだったでしょうか。

トレンドラインというのは水平線以上に
高度な波形認識

そして細かい定義が必要です。

私は何度も挫折しながら
ここまで辿り着くのに
4年以上かかりました。

トレンドラインを引く時は水平線と比べて
条件が曖昧になりやすいですが、
だからこそ「引き方」を
明確に決めて一貫していきましょう

総括

トレンドラインをマスターすることで
トレードの質は向上します。

特にバイナリーの順張り手法なんかは
このトレンドラインを用いたものしか
マトモに勝てるものはないと思っています。

私が開発したバイナリーツール

Benefitなんかは

このトレンドラインの考え方を元に

ローソク足分析、相場認識、トレンドの強さ

などの分析を完全に自動化し、

一つのロジック化したものになります。

総括

最初から高度な分析をするのは
難しいでしょうから
1つ1つレポートと照らし合わせながら何度
でも読み返しなが
ら学んでいただければと思います

トレンドラインはただの斜め線ではなく、
波に対して引くものである。

ここだけは細かいディテールを
忘れたとしても覚えていってください